

第34回 放送番組審議会議事録

2024年3月18日

株式会社シーエス・ワンテン
株式会社テレビ朝日

1. 開催年月日 2024年3月6日 水曜日 午前10時30分～12時00分

2. 開催場所 株式会社テレビ朝日本社8階特別会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名 出席 7名 書面参加 1名 欠席 0名

出席委員の氏名

委員長	池井 優	(慶応義塾大学名誉教授)
委員	後藤 洋平	(朝日新聞社東京本社編集局 編集委員)
委員	高木 美也子	(東京通信大学人間福祉学部教授)
委員	戸張 捷	(株式会社ランダムアソシエイツ代表取締役)
委員	前田 純弘	(昭和女子大学現代ビジネス研究所特別研究員)
委員	元村 直樹	(明治大学法学部兼任講師)
委員	四本 裕子	(東京大学大学院総合文化研究科教授)

<書面参加>

委員	藤田 興彦	(学校法人和田実学園評議員)
----	-------	----------------

放送事業者側出席者氏名

株式会社シーエス・ワンテン

代表取締役社長	福田 泉
業務推進本部長	渡辺 慎一
業務推進本部編成局長	中口 裕丈

株式会社テレビ朝日

コンテンツ編成局総合編成部長	河野 太一
コンテンツ編成局総合編成部サテライトメディア担当部長	北村 和之
コンテンツ編成局総合編成部	鈴木 祐啓
スポーツ局スポーツ2部	松本 尚之
ビジネスプロデュース局CS事業部長	松久 智治

4. 番組審議

◆テレ朝チャンネル1 『ももクロPROデュース』◆

<番組内容>

2014年に女性グループとして初めて国立競技場でのLIVEを行ない、2023年に結成15周年を迎えた4人組のアイドルグループ「ももいろクローバーZ」。そのももいろクローバーZのメンバーひとりひとりが、ファンがいちばん見たい自分を考え、メンバー自ら“セルフプロデュース”をする番組『ももクロPROデュース』！第1回の玉井詩織、第2回の高城れにに続いての第3回は、佐々木彩夏が「佐々木彩夏のギャップをPROデュース！」

ももクロ内でいちばんの箱入り娘キャラのあーりん（※佐々木彩夏の愛称）が、そのイメージとはまるで違う「ギャップ旅」を敢行！バイクでオフロード走行をしたり、ゴルフコースをラウンドしたり、サップボードで波乗り気取りをかましたりと、いつもとは違うあーりんが自由気ままに過ごす1日。さらには夜の街へ繰り出して、大はしゃぎする姿まで。

合間合間でのフリートークでも、普段よりもプライベートへ踏み込んだトークを展開！メンバーの中で唯一ペットを飼っていないあーりんが飼ってみたい犬種が明らかになったりと…など、ファンが観たことのないあーりんの姿を丸ごとお見せする2時間です。

<委員意見>

- 犬の散歩、バイク、ビリヤード、ダーツ、海、ゴルフなどに、ももクロの一人、佐々木彩夏が挑戦することに興味が沸いた。
- 挑戦したプログラムが全部初心者だったため、何か一つ極めているようなものが入っていたらよかったかなという印象。
- 自分の見え方をどうプロデュースしていくのか参考になると言える。
- アイドルも日常的なことは自分で発信しており、テレビ放送されるものとの間の部分を埋める何かをファンは欲しいと思っている。
- プロの機材を使って彼女の日常を見せるというやり方は、ネット番組とも戦えると感じた。
- 佐々木さんの飾らない人柄をすごく映していたため、コアのファンに向けた番組としては正しいのだろうと感じた。
- やはりアイドルなので明らかに気を使いすぎていて、ファン以外の人から見ると冷める感じがしたが、こうやって作っていくものだと感じた。
- 本当にギャップだったならば、むしろ着物を着せて落語をやらせる、あるいは柔道着を着て柔道をやらせる、そのくらいのギャップがあってもよかったのではないかと。

<番組担当者から>

今回あえて間口を狭くしましたが、番組が2時間弱あることを考えれば、やはり演者を知らない方や初見の方にも優しいような作り、演者のキャラクター含めた紹介などもしっかりやった方がいいのかと改めて感じた。

企画に関しては、佐々木彩夏という演者は小学校6年生の時から仕事をしているということで、27歳になった今とのギャップが楽しめるよう制作した。ただ、そのギャップというのが女性の方、特に初めて見る方には何がギャップなのか、なかなか伝わりにくいところもあり、そこをもう少し丁寧な説明必要かなと感じた。恐らくファン向けのドキュメンタリー、PV的なところと、バラエティー的なところのバランスをもう少し変えれば、佐々木彩夏自身のキャラクターにそこまで興味がなくても、番組として楽しむことができたのかなと思う。

◆テレ朝チャンネル2

『誰も知らないオカダ・カズチカ～真のチャンピオンになるために～』番組審議◆

<番組内容>

2023年、プロレスの真夏の最強戦士決定戦と言われる大会「G1クライマックス」で、史上初の3連覇を懸けて戦うオカダ・カズチカ選手に密着取材を行いました。リングにカネの雨を降らせるレインメーカーの異名を持つオカダ選手も、プロレス界のトップを走り続けてもう10年が経ちます。その間に様々な出来事が起こりました。オカダ選手がずっと会いたかったアントニオ猪木さんが亡くなったり、コロナ禍で客足が遠のき歓声が無くなったりと…オカダ選手は「プロレスとは何なのか？真のチャンピオンとは何なのか？」常に自分に問いかけながら理想のレスラーを探すようになりました。今回3連覇の懸かったG1クライマックスの舞台裏で、これまでの様々な葛藤と追い求める理想のプロレスラー像を語ってくれました。

さらに、強さと刺激を求めるオカダ選手が異業種の一流と対談し、一流の極意と真髓を吸収。真の最強になるために成長していく姿を追いかけてきました。またオフに見せる知られざる素顔や、家庭を持ち父となった新たな姿、まだ誰も知らない見た事のないオカダ・カズチカをたっぷりとお届けしました。

この番組は、真のチャンピオンを目指し自分探しに奔走する男の成長型密着ライフムービーです。

<委員意見>

- インタビュー相手が一流の選手であったため、我々の人生にも示唆を与えてくれるようなコメントが良かった。
- 彼も自覚しながらいろんなことを考えてプロレスの道を歩んでいるなと思った。
- スポーツスターがいて、いろんな切り口でいろんなスポーツを見ながら内容が進むという、番組のあり方がはっきりしていたため、面白かった。
- ニッチなプロレスからさらに一人の選手にフォーカスを当てた番組であったが、プロレスを知らない人でも見ていて勉強になり、教養番組としてはよく出来ていた。
- オカダさんを初めて知ったが、知性と教養があってものを語れる方ということが発見だった。
- オカダさんは非常に親しみやすい人柄で、実体験も話の引き出し方がうまく、相手もみんな本気で思っ取り組んでくれる。そこからいろんなヒントを得るシーンは非常に印象的であった。
- 内藤との敗戦でがっかりしながら控室まで戻らずに途中でへたり込み、内藤の感想を聞きながら振り返っていくというところから始まり、映像の作り方として面白いと感じた。

<番組担当者から>

3時間で長尺のドキュメントだったので、最後まで見ていただければと多少不安な点はあったが、少々ほっとしている。当初企画していたのがG1クライマックスで3連覇を達成して、その後に真のチャンピオンを目指していく、その先に異業種の方々とロケを行ってさらなるオカダ・カズチカを追いかけていくというものだったので、結果を受けて勝っても負けても番組は成立するという形で制作を行った。

立木先生の昭和の口調は、前に立木先生と打ち合わせをさせていただいたところでズバズバと言う方が、逆に私自身はオカダ選手を裸にしてくれるのではないかと、素のオカダ選手を出して

くれのではないかなというところで、今回は立木先生にお願いをした。今回の番組に対する意見をもとに、また骨太のドキュメントを制作していきたいと考えます。

5. シーエス・ワンテン放送番組の編集基準変更

「民放連 放送基準」が令和6年4月1日付にて一部改正されるのに伴い、「シーエス・ワンテン番組基準」の変更が諮問され、委員より異論なく承認されました。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた2024年3月6日以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、更なる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めています。

7. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

2024年4月以降に、ホームページに審議会概要を掲載ともに、放送番組としても公表する予定です。

8. その他の参考事項

次回の放送番組審議会は2024年9月に開催予定。

以上